

となった。また、PCGIAP の各 WG の議長、副議長も一部改選が行われ、主に測地分野の作業部会である WG 1 の副議長に国土地理院の辻宏道測地第二課長が選出された。

会議終了後、万国津梁館において新理事メンバーによる理事会が開催された。

## 6. 2 テクニカルツアー等の実施

7月16日の午後には、テクニカルツアーが実施された。

- コース1：北谷町、首里城

- コース2：NASDA 沖縄宇宙通信所、万国津梁館等

ツアーには会議に参加した外国人を中心に約150人が参加した。また、7月17日には海外参加者の同伴者のためのツアーも実施された。



写真－3 PCGIAP 理事及び事務局メンバー

## 7. カントリーレポートの作成

会議に提出するために、日本国より7本のカントリーレポートを作成した。そのうち、国土地理院が作成したものが3本、国内組織委員会（8.2参照）が中心となりとりまとめたものが2本、海上保安庁が作成したものが2本であった。

以下に、そのレポートのタイトルを挙げ、国土地理院が作成したもの及び国内組織委員会がとりまとめたものについて、概要を述べる。

### (a) Spatial Data Infrastructure Work in Japan 2000 – 2003

(国内組織委員会とりまとめ)

測地測量、地籍測量、地形図・主題図作成、海図作成及び地理情報標準化など測量及び地図作成分野全般における国内外の日本政府の活動についての報告。毎回提出を行っている。

### (b) Technical Cooperation in Surveying, Mapping and Charting by Japan

(国内組織委員会とりまとめ)

測地測量、地図作成、海図作成分野における国際協力について、これまで行ってきた研修員の受け入

れ、専門家の派遣、共同プロジェクト及び現在進行中の協力についての報告。毎回提出を行っている。

### (c) The New Geodetic Reference System of Japan - Its Adoption and Application to Our Products - (国土地理院作成)

2002年の世界測地系導入に際し、国土地理院が行った測量法改正、測地成果改正、地形図等の改訂、公共測量への対応等についての施策を報告。

### (d) Recent Volcanic Disaster Countermeasures Taken by GSI (国土地理院作成)

2000年に発生した有珠山と三宅島雄山噴火に際し、国土地理院が行った地殻変動監視、地形変化計測、地形解析等の対応を報告。

### (e) Promotion of Global Mapping Project - Activities of the ISCGM Secretariat and Japanese Government - (国土地理院作成)

前回の会議以降に、国土地理院及び地球地図国際運営委員会事務局が行った地球地図プロジェクト活動に関する報告。

### (f) The Completion of Change to the World Geodetic System (WGS) of Geodetic Datum on Japanese Nautical Charts (海上保安庁海洋情報部作成)

### (g) Preparation of Coastal Hazard Information for Tsunami (海上保安庁海洋情報部作成)

国土地理院が作成に関わった(a)～(e)の5本の論文の全文については、国土地理院発行「Bulletin of the Geographical Survey Institute, Vol. 50, March 2004」に掲載する。

## 8. 会議開催に当たっての対外調整

### 8. 1 国連との調整

UNRCC-APは、バンコクにある国連アジア太平洋経済社会理事会(ESCAP)の施設を会場に行われることが多い。今回開催場所として各国から日本が推薦された理由は、技術力に優れ、またアジア太平洋地域のリーダー国として役割を果たすことを各国から期待されているからであると思われる。

日本への会議招致については、PCGIAP内での調整の後、まず、日本国国連代表部を通じて、国連経済社会理事会にその旨を記した書簡を提出した。そして経済社会理事会本会議の場で日本開催が了承されたのが、開催1年前の平成14年7月23日であった。

続いて、会議の担当部局である統計部との調整に取りかかった。統計部とは、会議の議事内容とブックレット案作成、会議準備・運営実務その他ホスト国が責任を持って実施すべき事項の調整が主であった。